令和７年５月２３日
学校名　鈴鹿市立飯野小学校
学校長名　長谷　基弘

令和７年度　校内研修実施計画書

１．研究主題および教科

研究主題
主体的に学習に取り組み、仲間とともに学び合う子を育成する授業づくり
～確かな学力の育成をめざして～

今年度は、算数科で授業研究を進めていく。

２．研究主題設定の理由

（１）　学校教育目標と研究主題との関わり

本校は、知の教育（研修）、心の教育（人権教育）、命と根っこの教育（生活指導）を通して、学校教育目標**「すべての子どもたちに居場所をつくり、生きる意欲を育む」**の実現に向けた教育活動を推進している。知の教育においてこれまでの研究や実践と学校教育目標との関わりは次のようである。

○ **主体的に学ぶ**　「８つのたい」
「見**たい**」「知り**たい**」「考え**たい**」「伝え**たい**」
「聴き**たい**」「読み**たい**」「書き**たい**」「活用し**たい**」

子ども達が、安心できる関係の中で、「〇〇したい」という意欲をもって教育活動に取り組むことで、自分のもつ力を発揮し、高め合ったり、認めたり認められたりする経験を重ねることができると考える。また主体的に学ぶ姿勢が身につくことで、自信をつけたり、集団の中で手ごたえを感じたりすることができ、やがては自分の居場所を実感できる子どもに育つと考えている。

○ **仲間とともに学び合う**

自分で考えたことや仲間との対話を通して感じたことや学んだことを伝え合ったり、聴き合ったりすることで、自信を深めたり、仲間とのつながりをより強く感じたりすることが期待できる。こうした経験の継続によって、自ら学ぶことや仲間と関わることへの意欲が高まり、やがては生きる意欲を育むことにつながると考える。

（２）　学習指導要領が目指すものと本校の研究の関わり

学習指導要領では、今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちが成人して社会で活躍するころには、わが国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想している。そしてその時代を生き抜くために、学校教育では、**子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと**や、**様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値づけにつなげていくこと**、**複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること**が求められている。

こうした中で、私たち指導者が教育活動全般を通して意識していきたい柱を次のように述べている。①「何を理解しているか、何ができるのか（生きて働く「知識・技能」の習得)、」②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力。判断力・表現力等」の育成)、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）である。

これらをバランスよく育成すること、そしてそのためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められているといえる。

主体的な問題解決につながる学習課題を設定することや、自分の考えをもち、表現し合うことを通して学びを深める学習活動の追究など、本校が行っていきたい研究の流れは、学習指導要領の示す授業改善の方向性と一致するものであると考える。

したがって、本校児童の実態を踏まえた具体的な実践を通して、学習指導要領の具現化への方策を吟味・検討していきたい。

（３）　今年度の研究について

本校はこれまで国語科を中心とした研修を ４ 年間進めてきた。その研修の成果として、単元のゴールを設定し見通しを持って取り組むことが児童の主体的な姿につながることを確認することができた。昨年度は物語文を中心に、自分の気持ちや考えを互いに伝え合い、受け止め合い、さらに相手や全体に広めることを重点に取り組むことで、仲間とつながり、学びを深いものにすることができた。

昨年度の児童アンケートの結果では、「勉強はわかりますか。」の質問に対して肯定的に答えた割合は、７月が 87%、12 月は 91%だった。また、「自分の思ったことや考えたことを、進んで書いたり発表したりしていますか。」の質問では、７月は 74%、12 月は 82%が肯定的に評価しており、アンケートの結果からは子どもたちがより主体的に、学びに向かうことができるようになってきたといえる。全体提案の授業では、どの学年も主体的に学ぶことができるための手立てを工夫し、全員が参加できるように、「個人の考えを持つ→ペア（グループ）に伝える→全体発表」という授業展開で授業づくりが行われていた。このような実践の日々の積み重ねが、成果につながったと考えられた。

その一方で、「児童が主体的に取り組む」ことについて、評価が教師の主観的なものになってしまったことや、児童主体の学習の中での教師の出場に関することが課題として挙げられた。児童が主体的に学習に取り組む姿とはどのようなものなのか、改めて学習指導要領に示されていることや授業力ＵＰ５にもとづいて共通理解を図っていく必要があると感じた。

また、全国学力学習状況調査（国語・算数）や児童質問紙の結果から、家庭学習の時間が平均に比べてかなり短いことや、基礎の計算力が低いこと、説明する力が弱いことなども課題であることが明らかとなった。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度は窓口とする教科を算数科に変更して実践に取り組んでいく。算数科を窓口とした利点としては、

・主体的に学習に取り組むには、児童の中でＰＤＣＡサイクルを回すことが重要であり、算数の授業は４５分間のめあてや課題がわかりやすく、児童が自分の学びの振り返りをしやすい。

・九九の習得や筆算など、技能として「できるようになる」が分かりやすく、成果が数値として見えやすいため、国語科と比べて児童は達成感を得やすく、指導者は評価がしや

すい。
等が挙げられる。４年間の国語科を中心とした研修の成果を活かし、引き続き算数科を中心に、
・いわゆるＣ層Ｄ層の児童が少しでも苦手意識をなくし、得意な児童も含め全員が主体的に学習に向かうことができるような授業づくりを、個人や学年でなく学校全体で取り組み、積み重ねていきたい。
・昨年度の実践で、「友達の考えを受け止める力」「伝え合う力」が向上したことは成果である。このことを生かし、「自分の考えを分かりやすく説明する」「仲間の考えを自分の言葉で説明し直す」力をつけていきたい。
・分からないことが分からないといえる安心できる関係づくりが、学級の仲間づくりの土台になる。教科としての研修だけでなく、学習規律や学級集団作りの面でも情報を交換し合い、学校全体で研修をさらに発展させていきたい。

３．研究内容及び方法

授業力 UP５★ver.2 を活かし、本校では研究主題に関する３つの仮説を立て、それぞれ検証していく形で研究を進めていく。

≪仮説１≫

教師が課題設定を工夫することで、子どもたちが主体的に課題解決しようとする。

≪仮説２≫

子どもたちが互いの考えを仲間に伝え合ったりつなげたりすることで、主体的に学び合おうとする。

≪仮説３≫

振り返りをすることで、子どもたちが主体的に学ぶサイクルができる。
→子どもたちが日常生活から問いをもって授業や家庭学習に取り組むようになる。

文部科学省によって示されている「主体的な学び」を参考にした。本校でめざす、子どもたちの「主体的な姿」を以下に挙げる。

《仮説１に関して》
・目の前の課題に対して、「やってみたい。」「考えてみたい。」と自ら考えようとする姿。
・これまでの学びを活かして、課題に対して「こうやって考えたらいいかな。」などと解決しようとする姿。
・「みんなでやってみよう。」と仲間とともに粘り強く取り組む姿。
《仮説２に関して》
・子どもたちが、答えに至るまでの思考や過程の相違点を友達と伝え合い、楽しむ姿。
・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための表現や方法を検討する姿。
・わからないことに対して、仲間に「教えて」と素直に伝えたり、そのような仲間に自分の

考えを説明しようとしたりする姿。

《仮説３に関して》

・「わかった」「できるようになった」といった達成感を得る姿。

・学習したことを応用して日常生活の中の問いを解決しようとしたり、「次はこんなことをしてみたい」と子どもがみずから次の学びを考えようとしたりする姿。

このような姿を引き出すための授業づくりの工夫や手立てを検討し、実践していく。うまく引き出せた姿や今後めざしていきたい姿を日常的な学年会や校内研修、スライドを使った実践交流で振り返り、次の授業づくりや指導に活かしていく。

また研究主題に迫るために、以下のような取り組みをしていきたい。

① 日常生活と結びつけた課題設定　《仮説１に関連》

→買い物、等分、距離など、子どもたちが考える必要性を実感できるようにする。

② 各単元の系統性の理解

→子どもたちが既習事項を使ってよりよい問題解決方法を選択できるようにする。

③ ICT の効果的な活用　《仮説２に関連》

→ペア活動や班活動に加え、子どもたちが自分の考えをまとめたり、友達と考えを伝え合ったりできるように活用方法を検討していく。

④ 丁寧なノート指導　《仮説２・３に関連》

→子どもたちにとって、学びや思考を残すノートになるようにする。また毎時間の学びの振り返りを残すことで、次回以降の見通しを立てたり学びを活かしたりできるようにする。

⑤ 家庭学習への意欲を高める工夫　《仮説３に関連》

→子どもたちが学校での学びを生活と結びつけたり、興味をもったことをみずからすすんで学ぼうとしたりする姿を引き出す。

⑥ 授業づくりと仲間づくり

→授業での活動や児童同士の伝え合い、学び合いを通して仲間づくりをすすめていく。

⑦ 授業力向上のための取り組み

→全体研修会、板書やノートの交流、実践交流など、様々な方法や手立てを交流したり学び合ったりできるような機会を作る。

さらに、全教科・活動を通した学びの基盤として、昨年度に引き続き、**話す**、**聞く**、**読解力の向上**、**書く力の育成**、**読書の量と質の向上**にも取り組んでいく。これらは確かな学力の定着だけでなく、子どもたちが安心して過ごせる学級づくりにもつながるため、しっかりと意識し、日常的に丁寧に取り組んでいく。

年間計画　５月２３日（金）現在

一学期	４月　４日（金）　学級開き・授業開きに向けて　学習規律について ４月２１日（月）　研究方針・具体的方策等について ５月２８日（水）　ミニ研修「授業の組み立て方」 ６月　３年生　全体提案授業（指導主事招聘） ６月２３日（月）　ミニ研修「子どもを引きつける発問や問いかけ」 ７月２２日（火）　「子どもたちが話を聞くようになるための工夫」 ７月　１学期の各自の実践をスライドにまとめる。 ８月　５日（月）　校内研修会　実践の交流、学調・みえスタの分析より ８月　ミニ研修「不登校傾向のある子どものために」
二学期	９月　５年生　全体提案授業（指導主事招聘） ９月２２日（月）　ミニ研修「はやく仕事を進めるための仕事術」 １０月２０日（月）ミニ研修「トラブル対応、具体的な事例をもとに」 １１月　１年生　全体提案授業（指導主事招聘） １１月１９日（木）「体育の授業づくり」 １２月　２学期の各自の実践をスライドにまとめる １２月８日（月）　「道徳の授業づくり」
三学期	１月　２学期の実践の交流、総括に向けて ２月　研究の総括 ３月末　来年度の方針